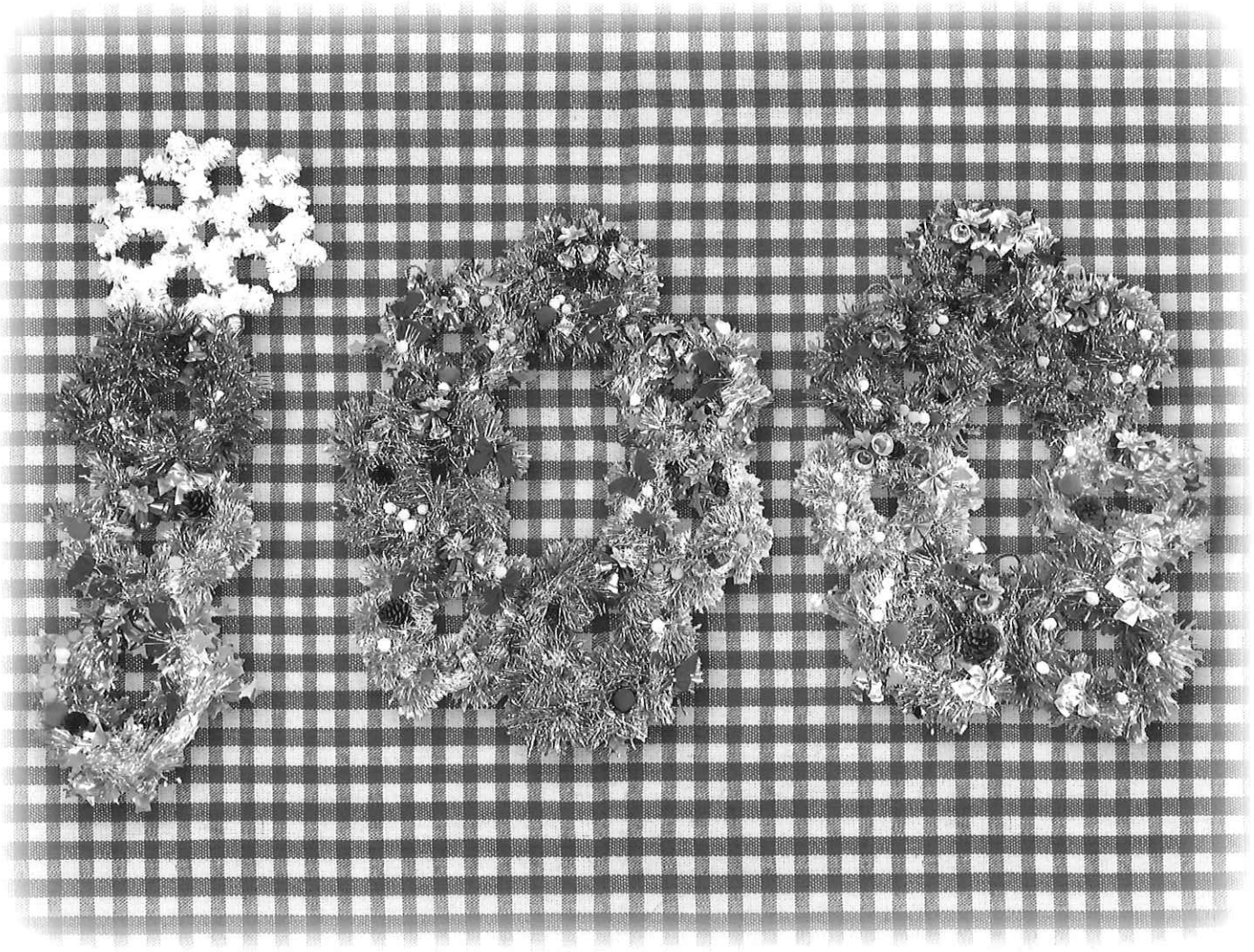
愛光会だより

第100号
桜島学園　和光学園　桜町学園　フレンドリーホームいいぐま
総合サポートセンター ラン　おひさまキッズ　相談支援事業所 あい
平成29年1月1日発行　発行・編集　社会福祉法人　愛光会
鹿屋市有武町855－3　TEL　0994－46－3212
http://www.aikohkai.com/



クリスマスに向け、１人ずつクリスマスリースを作りました。世界に１つの作品です。全員分並べて…力を合わせて…記念すべき１００の字にしました。

おひさまキッズ

「愛光会だより一〇〇号」の発刊によせて

社会福祉法人 愛光会　理事長　指宿　興一

新年、明けましておめでとうございます。

皆様方には、新しい年を御健勝にてお迎えになられたことと慶び申し上げます。

旧年中は、愛光会傘下のサービス利用者及び役職員一同が大過なく年を越すことができましたことは、皆様方のご理解と協力の賜物と衷心から感謝申し上げます。

本年も旧年以上のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

昨年の夏は、太平洋東部の赤道付近の海域において海水面の温度が平年よりも低くなるラニーニャ現象となり、例年にない猛暑が日本列島を襲いました。そのためか台風の発生が例年より遅く、七月三日になりようやく第一号が発生しましたが、十一月現在二十三個となり例年並みとなりました。そのうち日本列島に接近又は上陸した台風が十一個と多く数え、各地に甚大な被害をもたらしました。

特に第十号は関東沖の海上から沖縄沖の海上へ南下し、再び関東東岸へユーターンして東北東岸に上陸しました。その結果未曽有の集中豪雨による河川氾濫の濁流が岩手県岩泉町にある高齢者グループホームを襲い、利用者九名が帰らぬ人となる痛ましい悲劇が発生しました。また台風第十六号は、九月二十日大隅半島に上陸して豪雨と強風が荒れ狂い、とりわけ高隈地区は高隈ダムが緊急放出せざるを得ないほどの集中豪雨に見舞われました。

四月の熊本、大分地震に続いての十月の鳥取地震が発生して、その復興は遅々として進まず、罹災者がいまだに避難生活を強いられている現状を忘れてはならないと思います。

幸いとして、桜島は一昨年の夏以来小康状態にありますが、マグマ溜りは溶岩が継続的に供給され大正大噴火レベルに成長しているという報告あり、これからも予断は許されません。昨年は、自然災害の予測が困難でほとんどが想定外において発生することであることを前提にして、対応することが不可欠であると改めて認識させられた一年でありました。

「リスクマネジメント（危機管理）」は、具体的かつ直接的にリスクに効果的対応を図るとともに確率的に百年又は五百年に一回に発生するリスクに対しても具体的対応はともかく、その概要を共有することは非常に大事なことであろうと考えています。

一方、社会情勢は枚挙に挙げられぬほど多くの事件事故、社会的、政治的、軍事的紛争等の課題があるが、とりわけこれからの行く末を不透明にした出来事は、昨年十一月のアメリカ合衆国大統領選挙で勝利した「トランプ氏」の登場であろう。トランプ氏の保護主義的で過激言動を現実に実行されるなら、世界を大混乱に陥れると思われます。その結果、紛争は多発して、経済活動は停滞することになります。よって国民生活ひいては社会福祉に多大の影響を与えることになりましょう。今年は例年以上の緊張感をもって法人運営に当たらなければならないと痛感しています。

さて、本紙は、本号もって記念すべきかつ節目となる百回を数えます。

ここで「愛光会だより」の主な各号を振り返り、改めて「愛光会」歴史の原点を再認識することによって、これからの「愛光会の在り方」を考えてみたいと思います。

創刊第一号の当時は、昭和三十一年五月一日、養護施設「桜島学園」が開設してから、足掛け十五年、昭和四十二年十月一日知的障害児施設「和光学園」が開設してから三年が経過していました。さらに五年前に「社会福祉法人愛光会」が認可され、公的にも児童養護と知的障害児福祉の事業者として認知され始めた時代でした。昭和四十五年十一月三十日発行され、初代理事長指宿利夫の「発刊のあいさつ」の一部に「今後、七十年代の福祉施設のあるべき姿は、従来のように消極的閉鎖的なものでなく、積極的にふところを開放し、地域社会に進出して、これからのニーズに応え、またその幅広い協力のもとに多くの子供たちの幸せを考えることにあると思うのであります。そうした施設の近代化の一端として私たちの「愛光会だより」が生まれたのであります。」とあります。そして現在の愛光会の理念「社会福祉法人愛光会は、地域社会の福祉システムに積極的に参加して、あらゆる福祉ニーズに的確に応えられる体制を確立することを目指して、障害者や児童等のニーズに応じて、地域社会の中で人間として普通の生活を送ることができるように、そのライフステージの全段階とそれぞれの障害に応じた体系的かつ継続的な質の高い自立支援サービスを提供する。」として脈々と引き継がれています。初代理事長の先見の確かさには改めて驚嘆させられるとともに次の世代にしっかりと伝えなければならないと改めて思うことでした。なお第一号から昭和四十六年五月三十日発行の第三号まで手書きの謄写版印刷であり、昭和四十六年八月三十一日発行の第四号から活字印刷となり、時代を感じます。

昭和四十七年十月一日発刊の第八号は、知的障害者更生施設「桜町学園」の特集号である。愛光会傘下の知的障害児施設「和光学園」の利用者

は、原則として満十八歳までしか在園できず、他の更生施設への入所も困難を極めていました。その利用者、保護者の切なる要望に応えるために、桜島の爆発の影響が比較的に少ない鹿屋市有武町の旧桜町小学校跡地に知的障害者更正施設「桜町学園（定員五十名）」を開設しました。その紙面からその一部を抜粋します。

「職業指導計画とその展望」

農作業を中心として心身の鍛錬と体力の増進を目標に毎日の学習を進め、また体力を考慮し、能力に応じた、各人が少しずつでも持続性並びに体力が向上するように努める。

■農耕

学園周囲の農地は、過疎のために休耕地が多く、農家の厚意により借受けて、次の野菜等を試作する。

一般園芸　甘藷、落花生
そ菜園芸　カンラン、ホーレンソウ、大根、ニラ、ゴボウ、その他
施設園芸　現在ビニールハウスを建設中
特殊園芸　琵琶台木一千本育苗その他

■畜産

生産豚　二頭を飼育し子豚の生産
生産牛　今後は親牛を導入し子牛を生産するための準備作業

とあり、今日話題となっている「福祉と農業とのコラボレーション」の原型を見たような気持になります。

昭和五十一年四月一日、和光学園が桜島の野尻町から鹿屋市海道町新築移転した理由について、昭和五十年十月一日発刊の第十二号の「和光学園の新築移転を目前として（指宿利夫理事長）」で次のように説明されている。「和光学園は、桜島岳の南西面に位置し野尻川、春松川の下流地帯にあって、降雨期には、常にその氾濫の危険にさらされて居るので、毎年、この時期は、大雨注意報を受けるたびに、児童を安全な場所へ退避せしめて、事故災害の防止に心血を注いできたのである。ここ二、三年桜島爆発の降灰の被害と同時に河川の氾濫（土砂流）がひどく、工事中の作業員死傷事故などが多発して、世間の注目をひくようになり、そのうえ、新聞、テレビ、ラジオなどマスコミの報道によって地域住民は勿論、父兄の不安は増大されるようになった。何とかして児童たちを安全な場所へ移転させたいと願い、適地を探したのである。」とあります。改めて地球温暖化がもたらす異常気象や大地震、それによる津波、大噴火による自然災害を可能な限り減災する努力を怠ってはならないと痛感します。

平成四年十月十五日発刊の第四十七号は、故指宿利夫追悼を特集号としています。社会福祉法人愛光会理事長指宿利夫氏は、平成四年七月三十一日午前六時五十五分天寿を全うし、家族の見守る中八十一歳の生涯を閉じました。

八月二十日、鹿屋市文化会館にて、鹿児島県社会福祉協議会の寺園勝志会長様をはじめ一千人の方々の参列いただき、「社会福祉法人愛光会理事長故指宿利夫儀法人葬」が営まれ、その概要を紹介しています。なによりまず、あの法人葬の盛大にして荘厳な模様が何時までも心に残って感激を新たにしてくれます。

平成五年一月一日発行の第四十八号は、平成四年九月十四日就任した第二代理事長山之内忍氏が「新しい年を迎えて」と題して寄稿されています。新理事長は、高校教師の職を辞して、昭和四十七年四月一日桜島学園長に就任され、以来初代理事長のよき片腕として活躍されていました。その中で初代理事長の高邁な理念を受け継ぎ根付かせ、次の世代に確実に伝えることに精進、努力することを誓われています。最初の仕事として、初代理事長がやり残した仕事「世界有数の活火山桜島の麓にある養護施設桜島学園を土砂流の危険がない、火山灰や火山ガスに汚染されない鹿屋市への新築移転を挙げられています。

平成五年八月十五日発行の第五十号では、理事会で承認された「愛光会の今後の在り方に」ついて紹介されています。その中で「桜島学園」は愛光会の原点であるが、桜島の爆発、土砂流による災害の危険性の拡大による鹿屋市への移転を促しています。

しかし平成六年三月、「愛光会の今後の在り方」の提言を受けて策定された「愛光会基本構想」では、桜島の爆発回数の激減と土砂流災害対策の砂防工事の完備等自然災害の危険性が少なくなってきている。そして社会環境の変化による養護児童の減少に拍車がかかり、施設運営が困難なると予想される。このため桜島学園は、規模縮小及他種の福祉施設への転換することに見直されました。

平成七年一月一日発行の第五十四号は、「愛光会基本構想」に基づく第一次三か年施設整備等実施計画として桜島学園の居住空間改善事業を最優先事項として位置付けされています。

予定された紙面数が尽きましたので第五十五号以下の紹介は次号とします。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年は学園運営そして、児童支援に対しまして格段のご理解とご指導・ご協力を賜り誠にありがとうございました。新年が、皆様にとりまして幸多き年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

桜島学園　施設長　徳永辰則

本年も、昨年同様ご指導・ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

さて、桜島学園が現在取組中である構想の概要を、ひとつご紹介させていただきます。

昨年の桜島火山爆発レベル4避難準備の発令を受けて、家庭的養護推進計画の見直し委員会を組織し、その委員会を中心に議論を進めてきました。まず、桜島学園が現在地に所在しているメリットとデメリットを検証することから始め、利点を生かしながらいかにして児童の生命保証と、児童支援の充実を図っていくかに焦点を絞った議論の末、新家庭的養護推進計画案が出来上がったところです。

方針　①小規模化の推進　②地域分散化の推進　③専門化の推進　④自立支援

を柱とし鹿児島市内に地域小規模グループケアを2ヶ所、鹿屋市に地域小規模グループケア2ヶ所を平成三十年以降で設置し、いずれも爆発時の緊急一時避難場所として機能を考えているところです。以上紙面の都合上構想の一部を記させていただきました。

この愛光会だよりが、本号を持って100号の発刊を果たしました。創刊が昭和四十五年十一月三十日　初代理事長・創設者故指宿利夫理事長が、発刊のあいさつの中で、今後の福祉施設のあるべき姿は、地域社会に進出し、地域のニーズにこたえその幅広い協力の下多くの子ども達の幸せを、考えることにある。

そうした所轄施設の近代化の一端として、愛光会だよりは、生まれたのである。と述べられています。私たち愛光会職員は、このことを忘れることなく一層の向上を目指していきたいと思います。

養護学校と共に

和光学園　施設長　松脇　政記

新年おめでとうございます。本年も何とぞよろしくお願い申し上げます。

愛光会だより百号発刊おめでとうございます。重ねて法人のますますの発展をお祈りいたします。

十月三十日（日）県立鹿屋養護学校創立四十周年記念の記念式典（約四百名）・記念昼食会（約百名）が盛大に実施されました。本校は昭和五十二年四月に大隅半島では初めての知的障害児の学校として開校、肝属地区の知的障害児施設・和光学園・城山学園・新樹学園の三学園から七十三名の児童生徒が入学する事が出来ました。愛光会だより第十三号初代理事長挨拶四月より二十五名の小中学生が今度完成した、県立鹿屋養護学校に、毎日スクールバスで通学することになりました。

このこども達は、今から毎日学校に行けるんだと張り切ってますと書かれています。

創立四十周年を迎えた今年の児童生徒数は二百八名今後も増えていく傾向にあると校長から伺っています。開校当時の約三倍の生徒数となり本校の発展ぶりがうかがえます。

現在は、新樹学園・城山学園は障害者支援施設となり当園も障害者支援施設三十名と障害児入所施設二十名に削減されました。利用児が減少した理由として考えられるのは少子化や居宅サービスの多さと充実が上げられます。居宅サービスを多様に利用する事で保護者の負担が少なくなり、自宅から通学される児童生徒が増えた一方、障害児入所施設を利用される保護者が少なくなってきました。今当園では、本校に十六名の子供たちが元気よく通学していますその内高等部が約五割を占めています。平成二十四年度から障害児入所施設は高等部卒業後は退所となる通過施設となってしまいました。毎年退所された後の利用児確保が困難になってきています。本校からの相談で入所に繋がるケースが増えてきました。本校の保護者の中で障害児子育てに悪戦苦闘され悩んでおられる方が沢山おられます。入所施設が持っている専門性や蓄積したノウハウで子供たちが安心安全に育ち、彼らの生きやすさを支援する入所施設をアピールすることが大切になってきます。今後児童相談所・相談事業所等連携を密にして健やかに成長する子供たちを見守ることが当園の使命であると思います。

「愛光会だより」100号に寄せて

桜町学園　施設長　前原　昭子

明けましておめでとうございます。

皆様方には、新しい年をお健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は何かとお世話になりまして、誠に有り難うございました。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、「愛光会だより」は、当初「愛光だより」として、昭和45年11月に創刊され、今回で記念すべき100号を迎えました。これまで愛読して頂いた皆様、並びにこれまで寄稿して頂いた皆様に感謝を申し上げますとともに、歴代の編集委員の皆様のご努力に敬意を表します。

今回、「愛光会だより」100号に寄せての寄稿依頼があり、改めて綴られた全号に目を通して見ますと大きな感動を覚えました。桜町学園は、桜島学園、和光学園に次いで、昭和47年4月1日に設立され、昭和47年10月1日に発行された第8号の「愛光だより」に「桜町学園特集号」として初登場し、「新しい学園の歩み」として、生活状況と職業指導計画の報告が指宿利夫初代施設長始め指導員より寄稿されていました。

その当時の生活状況の記録を見ますと、初めての集団生活が落ち着くまでの悪戦苦闘の取り組みを通して成長し

ていく利用者様並びに職員の姿が伝わる感動的な内容が記されていました。又、職業指導計画によりますと当初は、地域特性を活かした「農耕」と「畜産」の職業訓練を行っており、学園周囲の農家の皆様のアドバイスを受けながら大根、ニラ、ゴボウ等を試作した事や「畜産」においては、山羊と豚を飼育していた事等、利用者様並びに家族の皆様や地域の皆様、そして指宿利夫初代施設長始め先輩職員のご苦労や熱い思いを改めて知る機会となりました。

創刊号発刊の挨拶の中で、指宿利夫初代理事長は、「今後、70年代の福祉施設のあるべき姿は従来のように消極的閉鎖的なものではなく、積極的にふところを解放し、地域社会に進出して、これら地域のニーズに応え、また、その幅広い協力のもとに多くの子どもたちの幸せを考えることにあると思うのであります。そうした、所謂施設の近代化の一端として私たちの「愛光だより」は生まれたのであります。」とありました。正に今、社会福祉法人に求められている課題の回答そのものが記されていることに、敬服している所であります。

桜町学園は今年4月で開設45周年を迎えます。発刊の目的であります利用者様の幸せを願い、地域に貢献出来る施設として更に職員一丸となって取り組む所存でございますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

愛光会だより百号発行を迎えて

フレンドリーホームいいぐま 施設長 指宿 章子

平成二十九年新春のお慶び申し上げます。

昨年は利用者の高齢化に伴い利用者の健康面で色々心配を重ねた一年間でしたが職員の細やかな支援と医療と連携を図った結果、病状も改善され一安心しております。御父兄の温かい応援、ご協力に感謝致しております。

愛光会だより第一号は昭和四十五年に初代理事長手書きで始まっています。西暦で千九百七十年度は、国連の障害者施策等について推進議決が何回も討議され社会福祉の基本理念となるノーマライゼーション思想を基に障害者の（完全参加と平等）のテーマが千九百八十一年国連で国際障害者年として決議されています。社会では日本で初めての大阪万国博覧会が開催され私自身、学校を卒業し初めての職場が大阪万国博覧会の会場内でした。多種多彩な建物と、人の多さに圧倒されながらも見る物、聞く物全てが珍しく若さで乗り切り結構楽しめた職場でした。あれから四十六年が過ぎシンボルの太陽の塔が寂しく万博公園内に残されています。太陽の塔を見る度に若さ故に怖い物知らずだった、あの頃の自分と共に頑張った仲間達が大変懐かしく思い出されます。当時障害福祉の世界とは全く無縁の生活でしたが、その後の縁で障害者と共に過ごして三十年になります。千九百五十年に生まれたノーマライゼーション思想、（障害の有無にかかわらず平等に人権が保障され自己のライフスタイルが主体的に選択でき能力・経済効率主義にくみしない共生社会の実現）を愛光会の基本理念とし現在では愛光会だより百号を迎えようとしています。手書きで始まった愛光会だよりも今日では各事業所のカラフルな写真、関わった幾多の諸先輩方の内容豊富な文集等で埋め尽くされ読み応えのある記録書に変貌しつつあります。愛光会だより百号発行おめでとうございます。二百号、三百号と継続して発行されます様期待します。

「祝・愛光会だより一〇〇号」

総合サポートセンターラン 施設長 有嶋 君夫

あけましておめでとうございます。

昭和四十五年十一月に創刊された愛光会だよりが平成二十九年新年号で記念の一〇〇号になります。愛光会の利用者支援の変遷や国の施策にどう対応してきたか、歴代理事長の下、利用者・保護者・職員のその時々の喜びや、苦悩が記事として残されています。

総合サポートセンター ランは平成十八年の七十九号から寄稿しています。このときは、障害者自立支援法が施行された年です。私は、このとき利用者に定率負担が導入された事で消費者に格上げされたと書いています。障害者が保護されるものから福祉を主体的に利用する側になったと思ったのです。しかし、その後、負担が高いことを苦に自殺に繋がってしまうことが起きてしまいました。「障害」があることによる社会的な支援を「益」であるとし、必要なサービスに「応益」負担を強制したが、「障害があることは個人の責任」なのか。地域で普通にくらしたい！ はたらきたい！ 社会に参加したい！ そんなささやかな願いや希望をかなえるのがめざすべき方向であり、それとは逆行しているとし、訴訟になったのです。その後、平成二十二年一月七日に、障害者自立支援法違憲訴訟の原告団・弁護団と厚生労働省が基本合意文書を取り交わしました。

応益負担の廃止と障害者自立支援法に変わる新たな総合的な福祉法制を実施する事となり、平成二十五年四月に障害者総合支援法が公布され、付帯決議がだされ、その状況により見直す事もきまりました。

障害のある方のささやかな願いを福祉サービスに反映させるため、相談支援事業が始まり、利用者、保護者、福祉サービスや関係機関をもとりもち、本人の願いを実現する一助をなしています。

国の施策の動向に合わせ、福祉制度も変わって行きます。それに対応する、愛光会の動きや利用者の様子などが、今後も愛光会だよりに掲載されるでしょう。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

「祝・愛光会だより一００号」

おひさまキッズ・あい　施設長　鶴田　正美

「面白がることをやめたら、人生はつまらない」

これは一〇三歳のおばあちゃんが語っていた言葉です。「新しい事を知ることが面白いので、孫やひ孫の教科書をもらって勉強しているのだ」とも。

ということで、私にとって今一番面白い話題は「神経可塑性」と「レジリエンス」なのですが、感想としては「脳ってすごい！」「人間ってすごい！」ということです。

私たちは普段、いろんな情報があふれている環境の中で生活しています。その中から必要な情報だけを取り出し（それ以外は無視して）目的の行動を無駄なく実行することが出来ています。ですが、それがとても苦手な人たちもいます。遠くで聞こえる換気扇の音が気になったり、他人が光景と一体化して、相手の声も雑音と一緒になってしまったり、文章が一部しか見えなかったり。言いかえるととても使いづらい体を持っているのです。

例えば私はアラビア語を読めませんが、一人アラビア語圏に放置されたら、不安で落ち着けず挙動不審な動きになるかもしれません。相手の表情を読むのが苦手だとしたら、もっと不安になるでしょう。

「相手の立場になって」言葉では簡単に言えますが、相手の感覚や感性を自分と同じだと思って支援していないか、最近強く思うことです。アラビア語圏に放置された自分を想像してみたら、支援の仕方もかわってくるのかもしれません。冒頭書いた通り「人ってすごい！」ので、環境に適応していける力は持っていますが、今まで私は自分を変えることなく、相手が変わることだけ要求してきたのではないかと反省しています。

ただ未来志向の私としては自分が変わろうと思った時が成長のチャンスだと思えるので、二００号に向けてスタートした愛光会だよりと共にスタートラインに立ちたいと思います。

「愛光会だより第一〇〇号を迎えて」

愛光会だより編集会委員長
桜町学園　主任生活支援員　福丸　義弥

明けましておめでとうございます。

ご愛読頂いております皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び致します。

さて、愛光会だよりは、昭和45年11月に創刊され、その歴史は実に46年になります。当時は全てのページが白黒のB5サイズで構成されており、時代が流れると共にカラーページになりA4サイズへと変遷してきました。過去の愛光会だよりを見てみますと、時代に則した文章や現在入所されている利用者様の若い頃の写真、ニューフェイスとして掲載されている初々しい姿の職員など、当時の様子が伺える事ができます。

現在の編集委員会は、各事業者から選出された職員7名で構成されおり、1月と8月年2回の発行に向けて会を招集し、理事長や事務局長よりアドバイスを頂きながら編集の作業を行っています。発行部数は年570部で送付先としましては、保護者様や行政、関連施設等があげられます。

委員会の活動は、まずスケジュールやレイアウトを決め、次に掲載内容に即した原稿依頼を行います。その後、2か月ほど掛けて編集や校正を行い、印刷会社と打ち合わせを行いながら、発行に繋げて行きます。

主な掲載内容ですが、1月発行分は、理事長挨拶・各施設長挨拶・愛光会研修報告・各施設職員挨拶・各施設行事報告で、8月発行分は理事長挨拶・各副施設長及び、主任等挨拶・愛光会研修報告・収支決算報告・法人行事報告・利用者の会報告、全体としては球技大会や文化祭等の参加報告、各施設利用者の活動報告、新人職員紹介、寄贈などです。

私は平成11年に入職して5年目で編集委員に任命され、平成19年からは編集委員長として活動しています。この仕事に関わり早12年となります。大変なことも多いですが、法人の情報公開の一翼を担っているというやりがいも感じております。今回、一つの節目である第100号を迎えられたことに深い感慨を覚え、改めて先輩方が築かれてきた歴史を汚すことのないように、編集委員一同取り組んで参りたいとの思いを強く感じております。今後、愛光会だよりを更に魅力あるものに発展させていく所存ですので、皆様方のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

ひろば

「心理職として出来ること」

桜島学園　児童指導員　濱松美由紀

子どもたちに出会って1年8ヶ月、様々な瞬間を共に過ごしてきました。楽しく笑い合ったり真剣に取り組んだり、時にはぶつかったりと、ここでしか味わえない濃い時間を過ごすことに、私はとても充実感を得ています。

子ども全員に目を配る職として難しさを感じることもありますが、悩みを打ち明けてくれた子が笑顔になる時やいつも意地っ張りな子が優しさを見せた時、幸せと同時にここに来てよかったと改めて思います。集団で過ごしているからこそ、言えない気持ちを相手に伝える橋渡しとして、また子どもの感情を育て心の健康を保つサポーターとして、子どもたちの思いに寄り添う職員でありたいと思っています。

「笑顔」

和光学園　生活支援員　小薄　和真

会話の中で目を合わせる、笑顔、仕草等のボディランゲージが使われています。ボディランゲージとは、非言語的コミュニケーションまたは身体言語等と言われ、要するに身振り・手まね等のジェスチャーや顔の表情で相手に意思を伝えることを言います。私達が普段話す時の表情は笑顔です。この笑顔には伝染する性質があり、相手に笑顔を見せると相手も笑顔を見せるミラーリング現象というものであります。いつも笑顔がこぼれる雰囲気にするコミュニケーションをとり、笑顔を絶やさず利用者支援を頑張りたいと思います。

「皆さんに感謝」

桜町学園　生活支援員　新鷲　清香

桜町学園に入職して九年目になりました。先日より、第二子出産の為の産前産後休暇を頂いております。職場の皆様には、第一子産前産後休暇・育児休暇、又復帰後も子の急病等で休みを頂くこともありご迷惑をお掛け致しましたが、勤務の変更等多くの配慮をして頂けたことで、仕事と家庭の両立をすることができました。今回の休暇期間中も、特に現場の支援員の方々には、ご迷惑をお掛けすることになり申し訳ない気持ちですが、再び戻って来られる自分の居場所がある事の有り難さに感謝しつつ復帰した際には、皆様とともに精一杯利用者さんの為に働きたいと思います。約一年間の休暇となりますが、宜しくお願い致します。

「試合前の食事について」

フレンドリーホームいいぐま　調理員　平原　哲哉

今、私の息子は中学で部活を頑張っています。その為に食事には気を付けています。

まず試合の前日の夕食は、ご飯、芋、果物を多めに摂り、油の多い食品と料理は控えるようにしています。朝食は試合の三～四時間前に食べ、主におにぎりやサンドイッチ、果物がいいそうです。昼食は最初のころは、お惣菜屋のお弁当が多かったですが先生の指導で手作りのおにぎりを出すようになりました。

おにぎりの具は子供の好きな物を入れてみなさん準備しているようです。もし試合が昼過ぎの場合は吸収が早い糖質（カステラ）などと水分やエネルギー系のゼリーなど摂取することが重要とのことです。私の出来る事はこれ位しか出来ませんが息子が頑張る姿を見ていると自分も元気がでて応援にも力が入ります。

みなさんも食事に気を付けて健康に留意してください。

「私もばあば」

総合サポートセンター ラン　生活支援員　重薗　瑞恵

今月、娘に2444グラムの子供が誕生しました。2～3ヶ月間の入院を経て誕生したこともあり、孫の誕生は本当に嬉しかったです。自分のお産と同じくらい感動しました。感動と共に、私が娘を出産した頃の母（現在82歳）の姿を思い出しました。今思えば大変なことを何気なく当たり前のようにしてきてくれたこと。その大変さを口にすることなくいつも笑顔でいてくれたこと。今、娘に子供が誕生し、私もばあばになり、母の思いに改めて気づかされました。私もそんなばあばに近づけるように、健康第一で娘・息子に迷惑をかけず、新しく誕生した命を温かく見守り、家族全員、元気に過ごしていけたらと思っています。

「いつか大物を！」

おひさまキッズ　児童指導員　谷口　光弘

私の趣味に磯釣りがあり、今までの記録、メジナの五十五センチです。その引きは強く、三年経った今でも覚えています。

釣りは、前日より餌を買い、仕掛けを作りながら大物を沢山釣った妄想を考えます。朝四時に起床なのですが、興奮して中々寝付けません。四時前に起きて、釣り場まで約三時間、道中も大物妄想でワクワクです。

釣り場にて願掛けをして撒き餌をします。後は太平洋の海に、浮きが沈むのを只々待つだけですが、中々沈んでくれません。その内に、魚は居ないのでは？と思ったりして時間だけ過ぎていきます。結果惨敗だった日も多く、高級魚が買えるとよく妻に言われます。しかし、磯の香りを嗅ぎながら食べる昼飯は最高ですし、疲れもあるのですが、心地よい疲れです。釣れた時は、その魚の美味しい事間違いありません。

いつか大物を！といつも考えています。

各施設行事報告

桜島学園 運動場完成記念 グラウンドゴルフ大会

T・Y

十一月十九日、園内にて運動場完成記念のグラウンドゴルフ大会が開催されました。メンバーは寮・ホームごとにチーム編成しました。前日から雨が降り、当日の午前中は曇り空で、実施できるか心配していましたが、午後からは天気も良くなり、実施することが出来ました。グラウンドゴルフを初めて体験する子がいたり、中にはホールインワンする子もいたりしました。半日でしたが、とても盛り上がりました。

私達児童会が中心に計画しました。今回で第6回になります。恒例行事になり、子どもと職員が一緒に楽しくプレイする事が出来ました。

和光学園 秋の親子一日遠足

担当支援員

十一月六日、鹿児島県立大隅広域公園へ秋の親子一日遠足に行ってきました。天気予報では雨が降る確立が50％でしたが快晴でした。利用者は歩きながら景色を楽しまれる方、遊具で遊ばれる方もいました。昼食の時間。今回の弁当の中身は唐揚げ、スパゲティー、そしてたこ焼きが入っていました。とても好評でみなさん「美味しい。」と言って食べられ笑顔になられていました。遠足では普段と違う表情をされます。こういった行事が利用者の皆様に楽しんで頂けるよう、より楽しい行事を行いたいと思います。

桜町学園 クリスマス会

担当支援員

十二月六日、毎年恒例のクリスマス会が開催されました。今年は、利用者の皆さんが作成された飾りで作業訓練棟が彩られました。

最初にクリスマスの歌を全利用者さんで合唱し、その後にサンタに扮した利用者さんからのプレゼントの配布がありました。次に各棟からの出し物として、男性棟は仮装パレードを行い、サンタとトナカイの仮装や、皆で作成したクリスマスの作品が並びました。女性棟は、健康体操を行い、音楽に合わせた元気な体操が披露されました。

締め括りは全員で合唱でしたが、楽しげな歌声が響き渡った桜町学園は、少し早いクリスマスムードとなりました。

短い時間ではありましたが、利用者様と職員の笑顔に溢れた和やかなひと時になったと思います。今後も利用者の方々に満足して頂けるよう、より良い行事を考えていきたいと思います。

フレンドリーホームいいぐま ファミリーレクリエーション

担当支援員

十一月六日、高山温泉ドームにて保護者会主催の、ファミリーレクリエーションが開催され、利用者、保護者、職員、総勢八十人もの参加となりました。

当日は秋晴れの元、天候にも恵まれ、温泉ドームの屋外アスレチック施設で、各々遊具で遊び、公園を散策したりとさわやかな秋の風を満喫する事が出来ました。

昼食は大宴会場に用意されました。会食の前に生活介護「ひまわりグループ」による、ハンドベルでのクリスマスソングの演奏が披露され、保護者の方に生活介護の日頃の活動の様子を見て頂き、演奏した利用者さんは、大きな拍手を受け満足した様子でした。

昼食後、保護者の方は、職員より日ごろの利用者さんの様子を聞き、利用者さんは、温泉に浸かり、カラオケで歌い楽しみ、舞台で踊り体を動かし、大変な盛況ぶりでした。

総合サポートセンターラン 秋の一日遠足

担当支援員

十一月十二日、秋の一日遠足として姶良のイオンタウンへ行って来ました。今回初めて行く場所で、利用者様は大変喜ばれていました。イオンに向かう途中で、垂水の道の駅に寄り、トイレ休憩や、足湯に入りリラックスされていました。イオンタウンでは、それぞれ欲しい物を購入し、食事は、自分の食べたいお店に分かれ楽しそうに食事されていました。到着時間が予定よりずれた為、買い物や食事をする時間が少し短くなってしまいましたがこのことを反省として、次回の遠足にいかしていきたいと思います。

おひさまキッズ ミニ運動会

担当保育士

当日早朝の小雨。会場準備中の雲行きも怪しく、園庭での開催が危ぶまれましたが、子どもたちが登園してくる頃には、天気の心配もなくなりました。

かけっこ、お遊戯は練習をして当日を迎えましたが、いつもと違う環境に戸惑いも見られる中、笑顔で活躍してくれる場面が各々ありました。

親子遊戯・競技も盛りだくさん。休む時間がないほどでしたが、親子での時間を楽しんでいただけました。

いよいよ最後のプログラム。お菓子とりは、大好きなお菓子に向かい、フライングで走っていくその姿に、笑いもうまれ、あたたかなミニ運動会になりました。一時間で行ったミニ運動会。来年もね！と嬉しい一言もいただけました。

各施設新職員の紹介 ニューフェイス

桜島学園
調理員
冨吉ミチヨ

十月から桜島学園の調理員として働かせて頂いております。子ども達から笑顔でおいしいかったと言ってもらえるように、愛情込めて料理を作りたいと思います。よろしくお願いします。

和光学園
指導員
立花幸太郎

一日一日を大切に利用者の方に安心してもらえるような支援を心掛けて頑張っていきます。

和光学園
生活支援員
下平　貴陽

十一月より生活支援員として働いてます。先輩方の手助けやアドバイスを貰いながら頑張りますので宜しくお願いします。

和光学園
保育士
久保　明美

男の子3人の子育てを終えたおばちゃんです。年にはかなわないですが、頑張りますのでよろしくお願いします。

桜町学園
生活支援員
本白水千奈美

十月より、桜町学園で支援員として働かせて頂いております。不安もありますが、利用者の皆様の笑顔に助けて頂く毎日です。一生懸命頑張りますので、宜しくお願い致します。

年金委員功労者 日本年金機構 理事長表彰

去る、十一月十七日、日本年金機構理事長表彰式がありフレンドリーホームいいぐま事務長、山下清治氏が表彰状を頂きました。

ボランティア　桜町学園

昨年、十二月十日に福元昭建設様並びに建設関係企業の約二十名の方々により土手の草払い等の奉仕作業をして頂きました。お陰様で学園全体が綺麗になり、健やかな正月を迎える事ができました。福元昭建設様並びに建設関係企業の皆様には大変感謝申し上げます。ありがとうございました。この場を借りて、お礼申し上げます。

寄贈一覧　桜島学園分 (H 28.8.1 ～H 28.12.18)

- 8月18日　九州アイスクリーム協会様より
  アイスクリーム50個
  フードバンク鹿児島様より
  スナック菓子・ジュース
- 10月13日　匿名様より（鹿児島市内5児童養護施設に）
  ￥20,000
- 11月　9日　鹿児島ライオンズクラブ様・南日本銀行 あさひ会様より
  防犯カメラ
- 11月24日　JAバンク鹿児島様より　**チューリップ球根**
- 12月　1日　日本鏡餅組合様より　**鏡餅**
- 12月　3日　県漁連様より　**かんぱち2匹**
  JA様より　**米・野菜類・雑貨等**
- 12月　3日　鹿児島ライオンズクラブ様より
  イルミネーション設置

たくさんの寄贈をいただきました。心から感謝いたします。

寄贈一覧　和光学園分

- (株) しか屋様より
  納豆
- (株) 新生社印刷様より
  学習机
- 鹿児島県共同募金様より
  ラジカセ二台
- 鹿屋市社会福祉協議会様より
  50,000円
- 鹿屋市漁業協同組合様より
  かんぱち

みんな大喜びでした。大切に使わせていただきます。ありがとうございました。

編集後記

明けましておめでとうございます。

皆様には、ご健勝にて新年をお迎えの事と存じます。

愛光会だより第100号が出来上がりましたので、お届け致します。

さて、愛光会だよりは今回でついに第100号の発刊を迎える事が出来ました。この歴史的場面に関われた事に、編集委員一同身が引き締まる思いです。これも諸先輩方が築き上げてこられた賜物だと感謝申し上げます。

次回から101号を新たなスタートとして、これからも当法人の歴史や情報を伝える役割を担いながら、150号、200号とその意思を引き継いでいく所存ですので、今後ともご協力の程宜しくお願い申し上げます。

（編集委員一同）

行事 生活 一コマ

桜島学園

笹河先生による「人権教室」

不審者対応訓練教室

レオクラブによる垂水災害ボランティア活動

和光学園

納涼大会

成人部　一泊研修旅行（宮崎へ）

なかよしスポーツ大会

桜町学園

クリスマス会

納涼大会

なかよしスポーツ大会

フレンドリーホーム いいぐま

クリスマス会

防災訓練

歯科指導

総合サポートセンター ラン

垂水道の駅（一日遠足）

講座参観（お茶作法）

なかよしスポーツ大会

おひさまキッズ

感覚教材

ぶどう狩り

クリスマスリース作り

（本紙の一部あるいは全部を複写・複製する場合、当法人の許可を得てください。無断で使用することは禁止されています。）